

1984年(昭和59年)

平和宣言

日本の皆さん、世界の皆さん、ナガサキの声を聞いてください。あの日十一時二分、真夏の太陽を引き裂いて、せん光が走り、天地が揺れ動いた瞬間、長崎は地上から姿を消しました。人間が焼けただれ、肉を引きちぎられ、累々と横たわり、また全身黒焦げになって、痛みと渇きに水を求めて、川辺に倒れた無数の男女、まさに人類滅亡の姿でした。

私たちがこの丘に集まり、三十九年間、核兵器廃絶、世界平和実現を叫び続けてきたのは、長崎の一発の原爆が、広い地域のあらゆる生物を残酷に殺りくし、すべての構造物と社会機能とを、痕跡を留めないまでに破壊し尽くした、それは今後核戦争が興れば、地球は滅亡することを、長崎市民は知り得たからであります。地球の未来は、今や人類自身の選択にゆだねられています。

確かに、これまでの平和を求める国際世論と、大きな草の根運動のうねりが、核戦争のぼっ発を防いできた。しかし、絶え間なく繰り返される核実験、驚異的に増え続ける核を含む兵器生産、ヨーロッパ、アジアに拡大される核兵器配備、中断したままの軍縮交渉、また増加し続ける局地戦争、まさに世界は、最悪の危機にあります。なお、今日人間の生存を脅かす不幸な現実を、直視しなければなりません。今、発展途上国の数億の人たちは飢えに苦しみ、世界各地に難民と失業者が増え、とくに未来を担う数千万人の子供たちは、教育の機会もなく、飢えと極度の栄養失調にあります。

このような状況のなかで、日本の私たちが核兵器廃絶、世界平和実現の叫びを、今よりさらに大きく、世界の声とするためには、世界の人たちの苦しみや悲しみの解決に力を尽くし、とくに発展途上国に対して、誠実さと謙虚さをもって、技術と富とを分かち合い、信頼と友情とを獲得しななければなりません。

さて、被爆国日本の政府に、誠意をこめて申し上げます。まず日本の軍縮に真剣に取り組むこと、米ソ両国を直ちに軍縮の話し合いの席に着かせること、その際世界の平和を求める声を代表して、国連事務総長を同席させることに努力して下さい。

また、今日ソ連のSS20の極東への増強とアメリカの核トマホークの艦船への配備等、日本周辺は、まさに緊迫した状態にあります。

これらの核搭載艦船のわが国への寄港、通過について日本政府は、事前に核の有無を確認して「非核三原則」を厳守して下さい。また日本とその周辺を非核地帯にすることに最大の努力を払って下さい。被爆者も教育者も、すべての国民が、決然として、平和を守ることを考え、行動に立ち上がる時です。

最後に私は、米ソ両国への平和使節団の派遣と、世界の被爆者のための国際医療センターの設置を提唱いたします。日本政府に来年被爆四十周年を期

して、被爆者の国家補償が実現することを強く求めます。また世界中の多くの人たちが長崎を訪れて、原爆の実相を確かめ、人類の未来を考えることを強く訴えます。

ここに、原爆で亡くなられた御霊のごめい福と、ご遺族のご健康をお祈りし、長崎こそ、地球上の最後の被爆都市でなければならないことを誓い、世界永遠の平和実現のために、まい進することを長崎市民の名において宣言いたします。

昭和五十九年八月九日
長崎市長 本島 等